

すかい

地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2022
令和4年
4-20
No.596

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

景況調査レポート



篠ノ井 杵淵 典厩寺の桜

満開のしだれ桜に彩られる古戦場近くの典厩寺。武田信玄の弟、典厩信繁の菩提を弔うため、真田信之が寺号を改めたのは信之が89歳の時でした。信之の父、昌幸は典厩信繁の知性、武勇に心酔し次男を信繁と命名しました。徳川方につき真田家を守り続けた長男信之。晩年に密かに供養したかったのは、愛する弟、真田信繁(幸村)だったのかもしれませんが。今年には信之が上田から松代へ入部して400年の節目の年を迎えます。

- 長野しんきん 景況調査レポート…………… 2
- 企業アンケート コロナ禍における企業経営 ①…………… 6
- 生活者アンケート 新型コロナの感染拡大がもたらした社会の変化 ①… 8
- 北信濃 明治時代の風景(1) 善光寺本堂周辺…………… 10

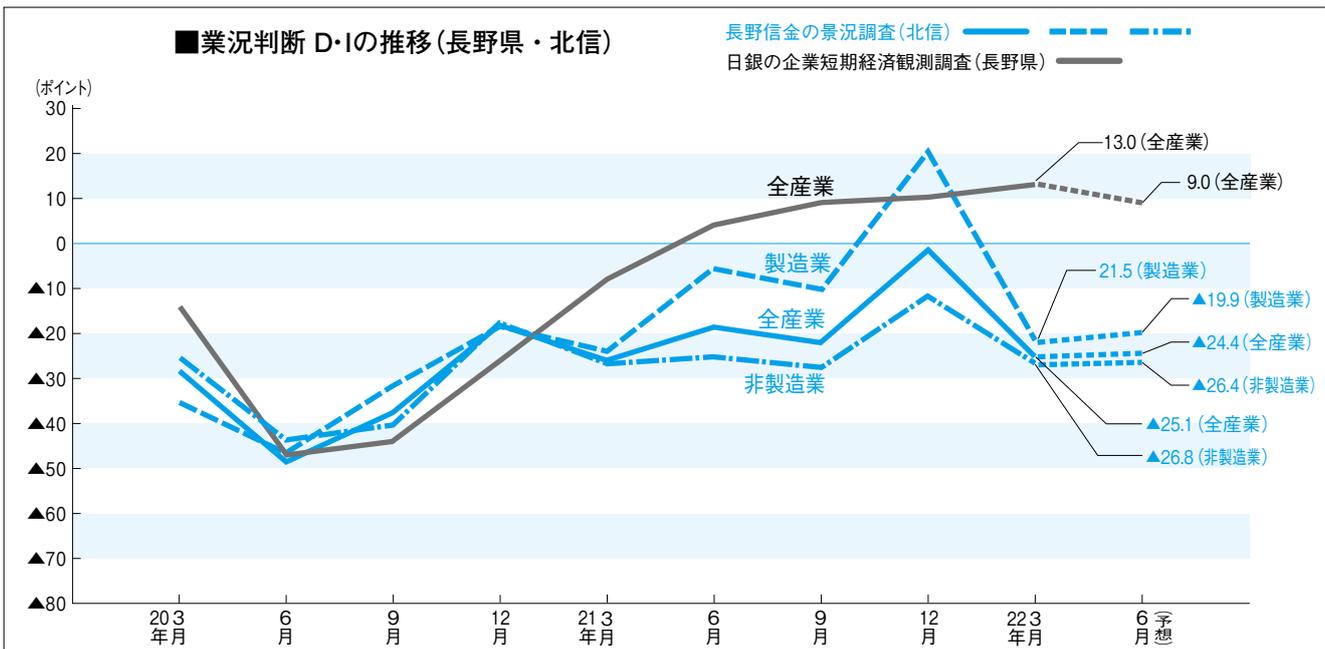
「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



 長野信用金庫

景況調査レポート 概況 (第187回景況アンケート調査)

◆長野県北信地区◆2022年1～3月期…景況の現状 ◇2022年4～6月期…景況の見通し



D-I指数は、業況について「良い」とする企業割合から「悪い」とする企業割合を引いた数値(四半期ごとに実施する景況アンケートに基づく)

全産業▲1 → ▲25 製造業・非製造業ともに悪化

2022年1～3月期の業況判断D-Iは、全産業で24ポイント悪化して▲25となりました。製造業は43ポイント悪化の▲22、非製造業も15ポイント悪化の▲27です。2022年4～6月期の全産業の業況判断D-I(予想)は、1ポイント改善の▲24となりました。

◆北信地区の1月～3月期の業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲1	▲25 (24ポイント悪化)	▲24
製造業	+21	▲22 (43ポイント悪化)	▲20
非製造業	▲12	▲27 (15ポイント悪化)	▲26

非製造業▲12 → ▲27 全業種が悪化

非製造業の業種別業況判断D-Iは、建設業が▲9(前期比▲16ポイント)、卸小売業が▲39(同▲10ポイント)、

◆非製造業の業種別業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	▲12	▲27 (15ポイント悪化)	▲26
建設業	+7	▲9 (16ポイント悪化)	▲17
卸小売業	▲29	▲39 (10ポイント悪化)	▲37
サービス業	▲23	▲41 (18ポイント悪化)	▲29

サービス業が▲41(同▲18ポイント)となり、全業種が悪化しています。

◆売上高D-Iと収益判断D-I

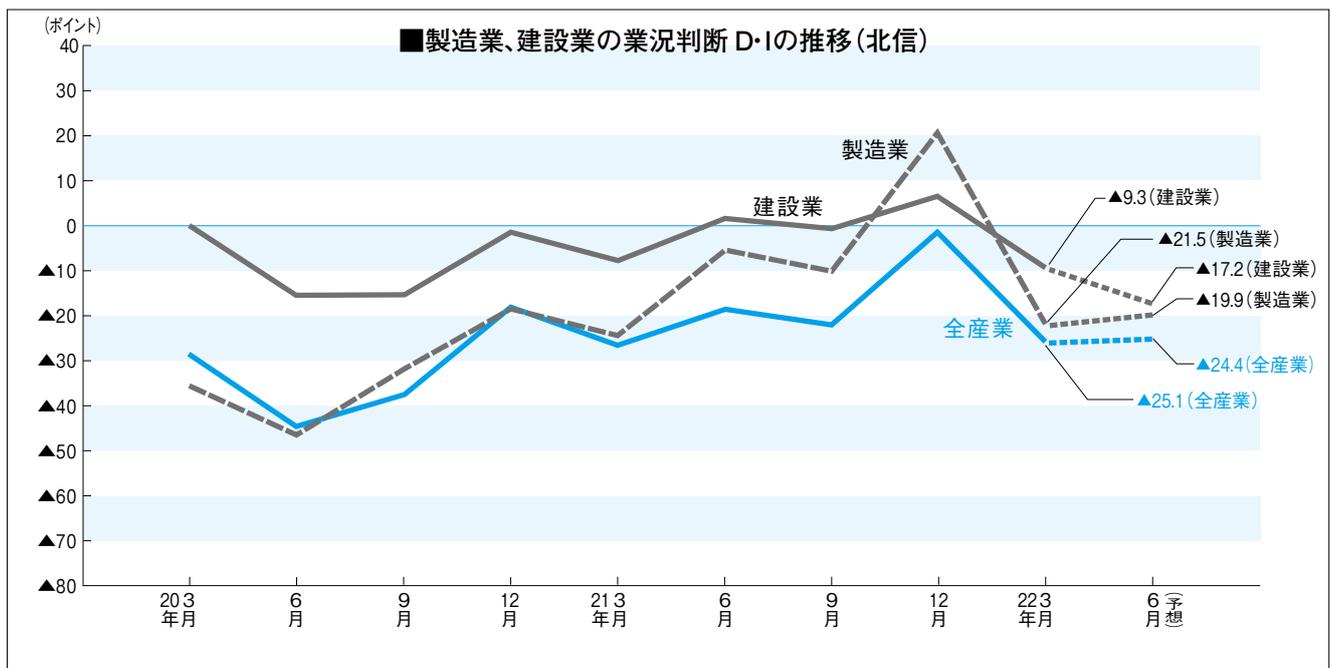
	売上高D-I(「増加」-「減少」)		収益判断D-I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	+15	▲27 (悪化)	+1	▲30 (悪化)
製造業	+28	▲34 (悪化)	+12	▲34 (悪化)
非製造業	+9	▲24 (悪化)	▲4	▲28 (悪化)

●北信地区の業況判断D-Iの推移

	2021年6月	9月	12月	2022年3月	6月(予想)
全産業	▲18.6	▲22.0	▲1.4	▲25.1	▲24.4
製造業	▲5.5	▲10.1	+20.6	▲21.5	▲19.9
非製造業	▲25.1	▲27.5	▲11.9	▲26.8	▲26.4

【調査要領】

- 調査実施……2022年3月
- 調査対象企業(回収)
 - 製造業……70社
 - 建設業……65社
 - 卸小売業……44社
 - サービス業……45社
- 合計……224社
- 回収率……88.9%
- 従業員規模
 - 30人未満……73.2%
- 分析…D-I判断指数を中心に分析



製造業の景況

43ポイント悪化して▲22に、来期は改善の予想

製造業の1～3月期の業況判断D・Iは▲22で、前期(+21)に比べ43ポイント悪化となりました。4～6月期は今期より2ポイント改善の▲20の予想です。

(前期)	10～12月期	+21
◆業況判断D・I	(今期)	1～3月期 ▲22
	(来期)	4～6月期 ▲20(予想)

◇業種別業況判断D・I

悪化	食料品・金属加工・一般機械・電気機械 自動車部品・精密機械
----	----------------------------------

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲34 (46ポイント悪化)

「増益」割合	前期 28% → 11% (17ポイント減少)
「減益」割合	前期 16% → 46% (30ポイント増加)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」	前期 49% → 41% (8ポイント減少)
「収支トントン」	前期 36% → 45% (9ポイント増加)
「赤字」	前期 15% → 15% (横ばい)

企業からのコメント

- ★銅の需要増加によって相場が高止まりしている。銅の用途となるEVや再生可能エネルギーのインフラといった“脱炭素”関連需要の拡大観測が相場を底上げしている。(鋼製家具)
- ☆★継続的に受注は確保しているが、短納期に対応せざるを得ないので外注に依存している。そのため収益の低下が懸念される。(レンズ加工)
- ★ダンボール等の消耗品類を中心に、仕入価格の値上げが相次いでいる。(各種プラスチック製品)

建設業の景況

16ポイント悪化して▲9に、来期も悪化の予想

建設業の1～3月期の業況判断D・Iは▲9で、前回(+7)に比べ16ポイント悪化しています。4～6月期は今期より8ポイント悪化の▲17の予想です。

(前期)	10～12月期	+7
◆業況判断D・I	(今期)	1～3月期 ▲9
	(来期)	4～6月期 ▲17(予想)

◇業種別

総合建設	前期 +27 → +30 (3ポイント改善)
土木工事	前期 +25 → +7 (18ポイント悪化)
建築	前期 ▲10 → ▲33 (23ポイント悪化)
各種設備	前期 ▲13 → ▲9 (4ポイント改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲6 (1ポイント悪化)

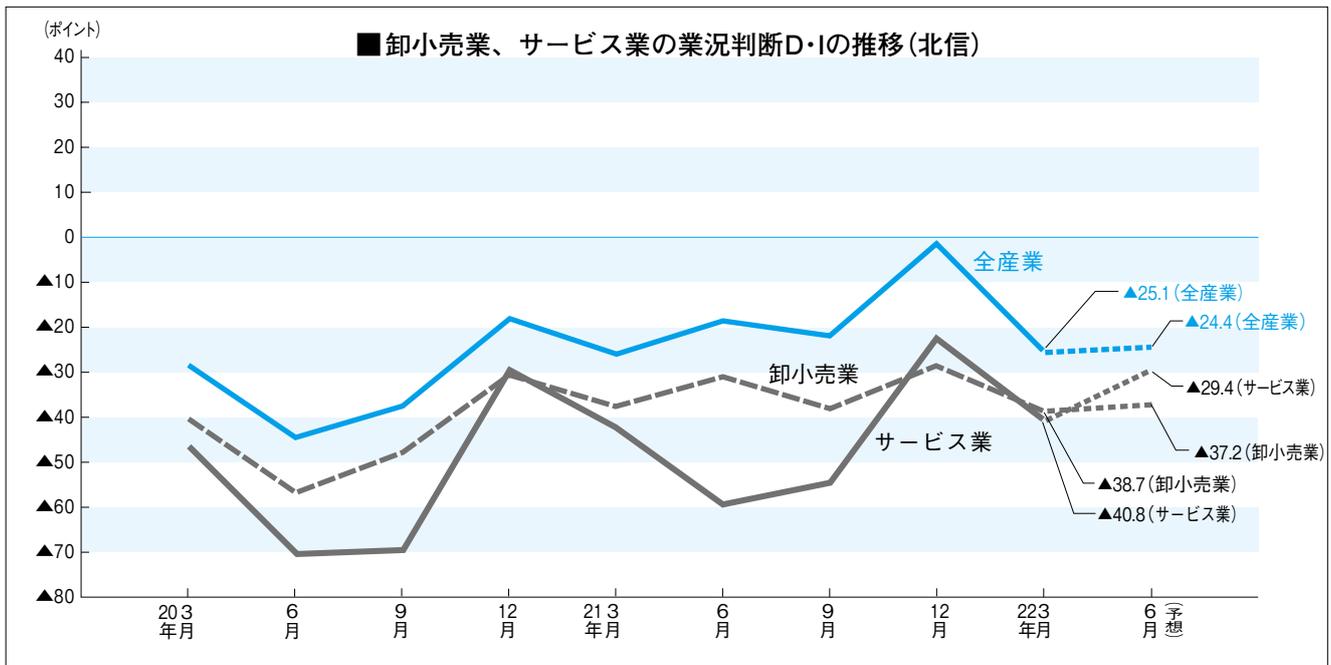
「増益」割合	前期 19% → 19% (横ばい)
「減益」割合	前期 24% → 26% (2ポイント増加)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」	前期 50% → 34% (16ポイント減少)
「収支トントン」	前期 44% → 59% (15ポイント増加)
「赤字」	前期 7% → 8% (1ポイント増加)

企業からのコメント

- ★資材価格が高止まりして建設価格を押し上げているため、収益が低下している。(総合建設)
- ★「コロナ禍」や「ウクライナ情勢」によってアルミ等の住宅機器の値上がりが懸念される。(建築)
- ☆★今年の秋口からの業績は前々期ペースに戻る可能性は大きいですが、ウクライナ情勢如何により建築着工の遅れも懸念される。(内装工事)



卸小売業の景況

業況は10割悪化の▲39、来期は改善の予想

卸小売業の1～3月期の業況判断D・Iは▲39で、前回(▲29)に比べ10割悪化しました。4～6月期の業況判断D・Iは2割改善の▲37の予想です。

◆業況判断D・I	(前期)	10～12月期	▲29
	(今期)	1～3月期	▲39
	(来期)	4～6月期	▲37(予想)

◇業種別	卸売業	前期 ▲7 → ▲53 (46割悪化)
	小売業	前期 ▲41 → ▲30 (11割改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲41 (22割悪化)

「増益」割合 前期 16% → 12% (4割減少)

「減益」割合 前期 35% → 52% (17割増加)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」 前期27% → 33% (6割増加)

「収支トントン」 前期50% → 42% (8割減少)

「赤字」 前期23% → 26% (3割増加)

企業からのコメント

- ★糸の価格が上昇しているのので、布団等の価格にも影響が出ないか懸念される。(タオル・シーツ卸)
- ★☆「コロナ禍」で、依然としてお客様の動きは少ないが、春になり暖かくなってきたので、イベント等も開催できないかと考えている。(家電販売)
- ★建築資材の仕入価格が上昇している。さらに大雪の影響もあって、1・2月は現場へ入れず建材販売は低調に推移している。(建材販売)

サービス業の景況

18割悪化の▲41、来期は改善の予想

サービス業全体の1～3月期の業況判断D・Iは▲41で、前回(▲23)と比べ18割悪化しました。業種別では、サービスと運輸が改善し、タクシー・外食・観光・不動産が悪化しています。4～6月期の業況判断D・I(予想)は12割改善の▲29です。

◆業況判断D・I	(前期)	10～12月期	▲23
	(今期)	1～3月期	▲41
	(来期)	4～6月期	▲29(予想)

◇業種別業況判断D・I

サービス 前期 ▲14 → ▲13 (1割改善)

輸送 前期 ▲56 → ▲60 (4割悪化)

タクシー 前期 ▲67 → ▲100 (33割悪化)

運輸 前期 ▲50 → ▲43 (7割改善)

外食 前期 ±0 → ▲71 (71割悪化)

観光 前期 ▲71 → ▲78 (7割悪化)

不動産 前期 +20 → +10 (10割悪化)

企業からのコメント

- ★団体客の動きが鈍いので、今回の「善光寺御開帳」の宿泊客はどの程度期待できるか不安。(旅館)
- ★1～3月の観光バス予約は、「まん延防止等重点措置」によりほぼキャンセル。タクシー売上も飲食店の夜間の休業要請により激減。協力金の受給ができない業種でもあり、コロナ関連の経済対策に不公平さを感じる。(バス・タクシー)
- ★燃料が値上がりしているのに、荷主には運賃値上げに応じてもらえず、荷動きも悪い状況。(運送)

雇用情勢 1～3月期

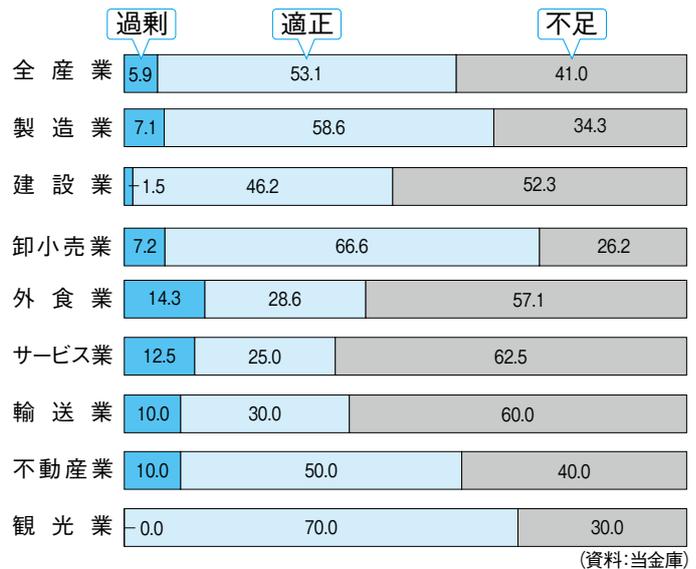
卸小売・外食・輸送・観光が改善

従業員の過不足感(「過剰」-「不足」)は、全産業で▲35となり、前回(▲36)より1ポイント改善しています。

雇用情勢 (「過剰」-「不足」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)
全産業	▲35.7	▲35.1
製造業	▲26.8	▲27.2
建設業	▲48.3	▲50.8
卸小売業	▲23.3	▲19.0
外食業	▲57.1	▲42.8
サービス業	▲37.5	▲50.0
輸送業	▲55.5	▲50.0
不動産業	▲30.0	▲30.0
観光業	▲42.9	▲30.0

従業員の過不足感 (%)



資金繰り 1～3月期

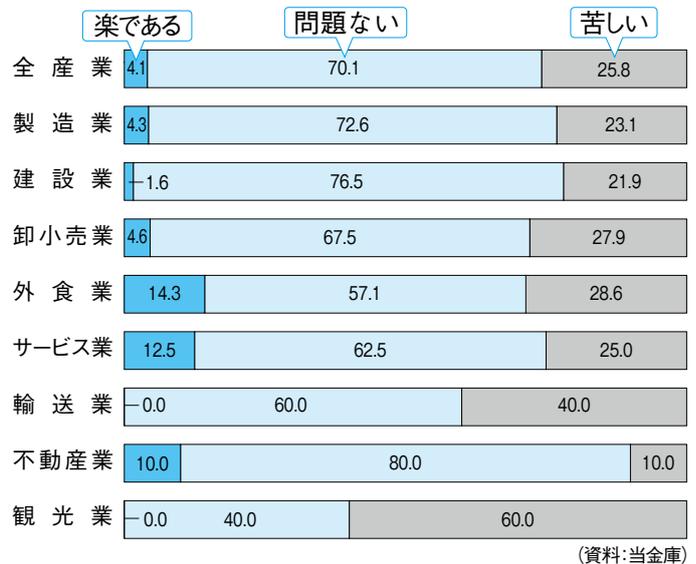
製造・卸小売・輸送が改善

資金繰り状況判断(「楽である」-「苦しい」)は、全産業で▲22となり、前回(▲19)より3ポイント悪化しています。

資金繰り (「楽である」-「苦しい」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)	来期(4～6月)
全産業	▲19.0	▲21.7	▲22.9
製造業	▲22.0	▲18.8	▲25.0
建設業	▲12.8	▲20.3	▲18.7
卸小売業	▲34.0	▲23.3	▲28.5
外食業	+28.6	▲14.3	▲14.3
サービス業	+12.5	▲12.5	▲12.5
輸送業	▲44.4	▲40.0	▲40.0
不動産業	±0	±0	+10.0
観光業	▲28.6	▲60.0	▲40.0

資金繰り状況感 (%)



販売価格動向 1～3月期

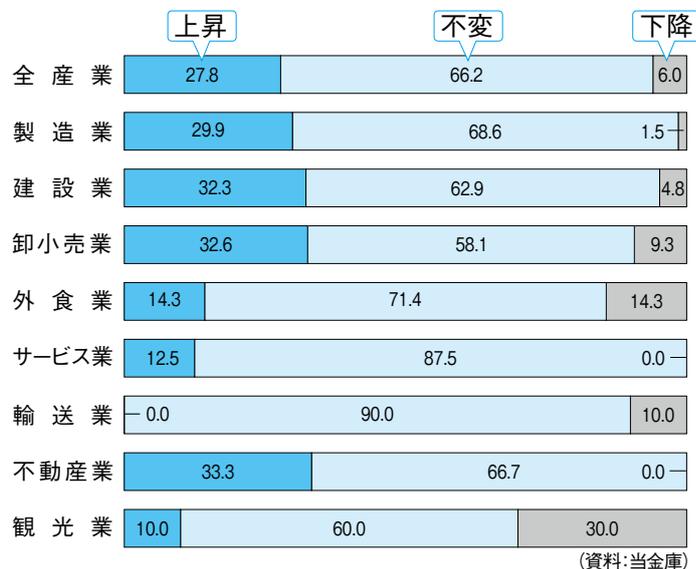
製造・卸小売が上昇

販売価格動向(「上昇」-「下降」)は、全産業で+22となり、前回(+18)に比べ4ポイント改善しています。

販売価格動向 (「上昇」-「下降」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)	来期(4～6月)
全産業	+18.1	+21.8	▲27.5
製造業	+13.2	+28.4	▲33.8
建設業	+28.8	+27.5	+32.2
卸小売業	+16.3	+23.3	+27.9
外食業	+14.3	±0	±0
サービス業	+12.5	+12.5	+25.0
輸送業	±0	▲10.0	▲10.0
不動産業	+33.3	+33.3	+20.0
観光業	±0	▲20.0	+20.0

業種別販売価格動向(対前期) (%)



新常態移行での懸案事項

「市場の衰退や変動」41% 「人材や人手不足」41% 「収益性の低下」37%

IT人材の確保状況

「足りている」16% 「不足している」44% 「外部委託」13% 「必要性がない」22%

新常態移行での「懸案事項」 トップ3は「市場の衰退や変動」(41%)、「人材や人手不足」(41%)、「収益性の低下」(37%)となりました。

IT人材の確保状況 「足りている」企業は16%に過ぎず、「不足している」44%、「外部委託」13%、「必要性を感じていない」22%となっています。

新常態移行での懸案事項

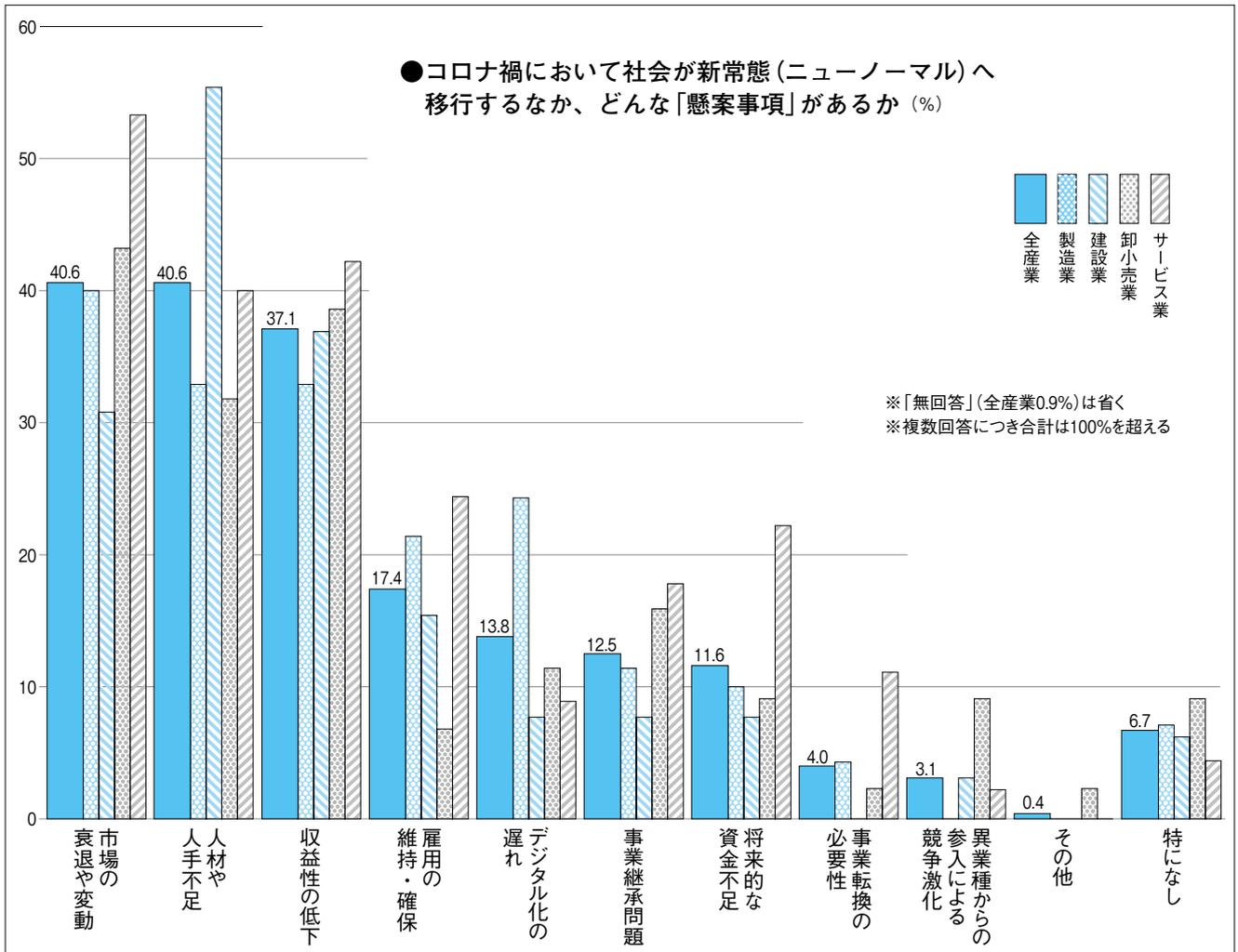
- 「市場の衰退や変動」41%
- 「人材や人手不足」41%
- 「収益性の低下」37%

「コロナ禍において社会が新常態(ニューノーマ

ル)へ移行するなか、どんな懸案事項があるか」を聞きました。

最も高くなったのは「市場の衰退や変動」と「人材や人手不足」で、それぞれ41%、次に「収益性の低下」が37%です。以下「雇用の維持・確保」「デジタル化の遅れ」「事業継承問題」「将来的な資金不足」が2ケタとなり、「特になし」は7%に過ぎません。

従業員規模で見ると、30人未満は「事業継承問題」(14%)が6割、「将来的な資金不足」(13%)が5割、30人以上より高くなっています。30人以上は「人材や人手不足」(53%)が17割、「市場の衰退や変動」(45%)、「収益性の低下」(42%)、「雇用の



維持・確保」(22%)がそれぞれ6割、30人未満より高くなっています。

業種別

サービス業は6項目で1位

◇4業種の状況

製造業 「デジタル化の遅れ」(24%)は他業種に比べ最も高く、他方「収益性の低下」と「異業種からの参入による競争激化」は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「人材や人手不足」(55%)は他業種に比べ最も高く、他方「市場の衰退や変動」「事業継承問題」「デジタル化の遅れ」「将来的な資金不足」「事業転換の必要性」は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「異業種からの参入による競争激化」(9%)と「特になし」(9%)は他業種に比べ最も高く、他方「人材や人手不足」「雇用の維持・確保」は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「市場の衰退や変動」(53%)、「収

益性の低下」(42%)、「雇用の維持・確保」(24%)、「将来的な資金不足」(22%)、「事業継承問題」(18%)、「事業転換の必要性」(11%)は他業種に比べ最も高く、他方「特になし」は他業種に比べ最も低くなっています。

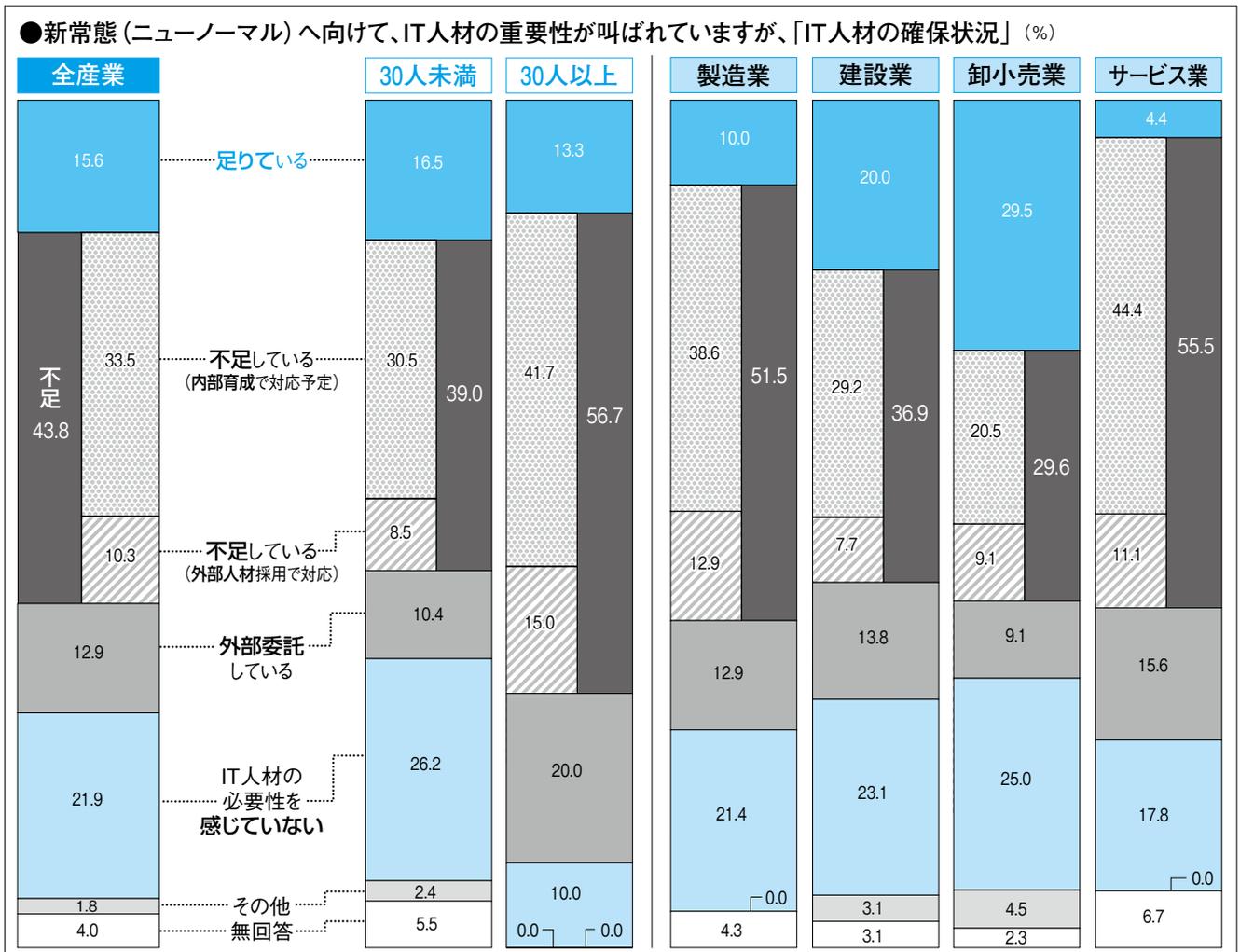
IT人材の確保状況

「足りている」	16%
「不足している」	44%
(内部育成で対応予定 34%)	
(外部人材採用で対応 10%)	
「外部委託している」	13%
「必要性を感じていない」	22%

「新常態(ニューノーマル)へ向けて、IT人材の重要性が叫ばれていますが、IT人材の確保状況」について聞きました。

◇全業種の状況

「足りている」は16%、「不足している」は44%、「外部委託している」は13%、「必要性を感じていない」は22%、「その他」は2%でした。「不足して



いる」のうち、「内部育成で対応予定」は34%、「外部人材採用で対応」は10%です。

従業員規模で見ると、30人未満は「足りている」17%、「不足」39%、「外部委託」10%、「必要性はない」26%、「その他」2%でした。30人以上は「足りている」13%、「不足」57%、「外部委託」20%、「必要性はない」10%でした。「不足」と「必要性を感じていない」「外部委託」に大きな差があります。

◇4業種の状況

製造業 可もなく不可もない、平均的な状況と言えます。

建設業 製造業と同様に、平均的な状況です。

卸小売業 「足りている」(30%)、「必要性を感じていない」(25%)は4業種で最も高く、「不足」(30%)と「外部委託」(9%)は4業種で最も低くなっ

ています。

サービス業 「不足」(56%)と「外部委託」(16%)は4業種で最も高く、「足りている」(4%)と「必要性を感じていない」(18%)は4業種で最も低くなっています。

◇次回は「今後の事業展開」と「半導体・樹脂製品・木材・鉄鋼材等の『モノ不足』による企業活動の影響」を予定

[調査要領]

実施期日：2021年3月上旬～中旬

実施要領：第183回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収224社（製造業70社、建設業65社、

卸小売業44社、サービス業45社）

うち従業員30人未満164社（73.2%）

「コロナ禍における企業経営」に関する企業からのコメント

製造業

◇リアルな営業活動が難しい状況が続いているが、Webによる営業には限界がある。

(シール・ラベル)

◇人手不足が続いていたが、5～6月にベトナムから10名程が入社予定で安心している。(自動車部品)

◇家庭内の感染や濃厚接触者の発生で、休む人が増加した。日程管理が難しく、人員不足の補充のため残業等人件費が増加。(精密機械)

◇すべての値上りが、デフレ解消となるか？ 日本経済の低迷が続いて、悪い方向に向かわないか懸念する。(漬物加工)

◇“人口減少問題”が深刻化するなか、企業のあるべき姿を、見直していく機会として検討することが重要。(半導体製造)

建築業

◇外国人労働者が入国できず、人手不足が深刻な状況になっている。早期の入国再開を願っている。

(鉄骨鉄筋)

◇従業員の「コロナ感染者・濃厚接触者」などの休業については、「BCP(事業継続計画)」で対応できている。また、リモートを余儀なくされたことにより、結果として可能な業務の選別が出来た。(内装仕上)

◇従業員の「コロナ感染」で、作業現場が止まらないように感染対策をしている。(造園)

◇材料価格の上昇が尋常ではない上に、入荷の見込みも立たない状況にある。(電気設備)

◇人との交流の機会を「コロナ禍」前に戻すには、時間と体力が必要になる。また、以前のような生活スタイルに戻らないことが沢山あると思う。

(土木工事)

卸小売業

◇「コロナ禍」で、店頭売りは芳しくないが、ネット販売は順調に売上を伸ばしている。(衣料品)

◇1～2年前は「コロナ需要」があったが、第6波では売上が落ち込んでいる。そのうえ、大雪の影響もあって物流が止まり、北海道や東北産の野菜、果物の価格が高騰している。(青果卸)

◇従業員が「コロナ感染」で休業すると、仕事が回らないので困る。早期収束を願う。(建材販売)

サービス業

◇「コロナの第6波」が想定以上に長引いている。協力金の支給はあるが、規制解除後の客足の戻り具合が心配。春は歓送迎会の時期で、売上増加を期待してはいるが…。(飲食店)

◇営業を続ければ、続けるほど赤字が増える。現状から抜け出す打開策を思案中である。(旅館)

◇「コロナ禍」の見通しが不透明で、事業計画するも立てられない状況に、経営者は苦しめられている。(バス・タクシー)

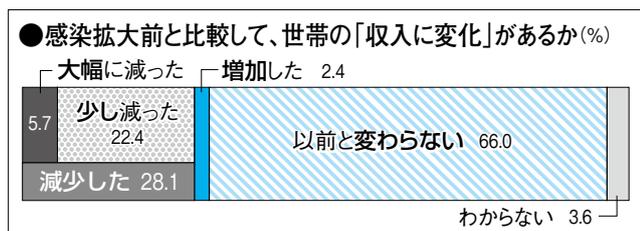
- 世帯収入の変化 「減少」28% 「増加」2% 「不変」66% 「わからない」4%
- 不安や困ること 「見通しが不透明」67% 「感染する不安」62% 「外出・移動の制限」33%

「コロナ禍での生活も2年以上が経過したが、感染拡大前と比較して、世帯の収入に変化があるか」を聞きました。

「減少した」28%に対して、「増加した」は2%に過ぎず、「以前と変わらない」は66%、「わからない」は4%でした。「減少」と答えた人のうち「大幅に減った」は6%、「少し減った」は22%でした。

男女別で見ると、男性の「減少」29%・「増加」3%に対して、女性は「減少」27%・「増加」2%で、うち「大幅に減った」は男性・女性ともに6%、「少し減った」は男性23%、女性21%となり、大差はありませんでした。

世代別で見ると、10～20代の「減少」19%・「増加」2%に対して、30～40代は「減少」23%・「増加」4% 50代以上は「減少」37%・「増加」2%となり、かなり差が開いています。



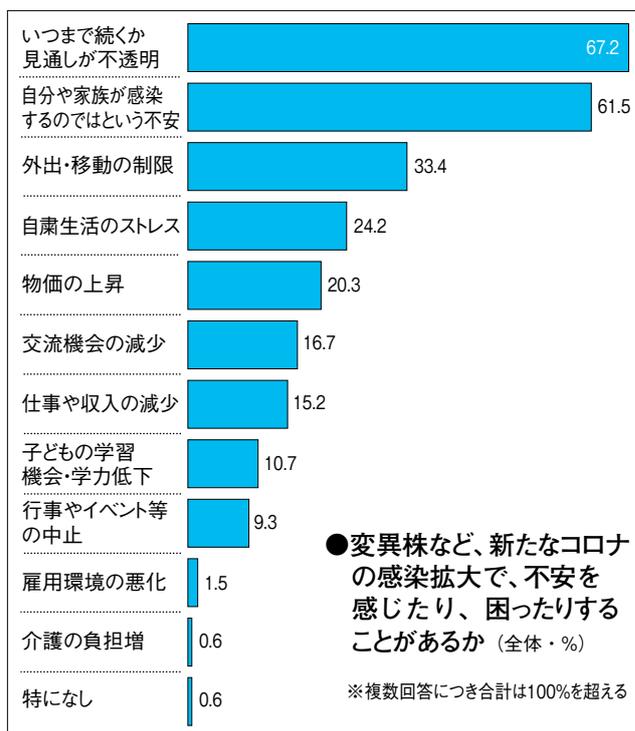
「変異株など、新たなコロナの感染拡大で、不安を感じたり、困ったりすることがあるか」を聞きました。

上位3項目を見ると、「いつまで続くか見通しが不透明」67%、「感染するのではという不安」62%、「外出・移動の制限」33%となりました。

男女別で見ると、男性の「見通しが不透明」68%、「感染する不安」58%、「外出・移動の制限」33%に対して、女性は「感染の不安」67%、「見通しが不透明」66%、「外出・移動の制限」34%となり、1位と2位

が入れ替わっています。

世代別で見ると、10～20代は、「見通しが不透明」58%、「感染する不安」46%、「外出・移動の制限」54%となりました。30～40代は、「見通しが不透明」65%、「感染する不安」69%、「外出・移動の制限」32%となっています。50代以上は、「見通しが不透明」73%、「感染する不安」60%、「外出・移動の制限」26%となりました。



[調査要領]

実施期日：2022年3月上旬～中旬
 実施場所：長野信用金庫本店窓口
 調査数：335人(男性201人・女性134人)
 調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「新型コロナウイルス感染症」に関する生活者からのコメント

- ◇「コロナ禍」の生活が続く中で、以前よりコロナに対する“危機意識”が低下している。(20代女性)
- ◇「コロナ禍」により、身近な人との関係が以前にも増して、大切に思えるようになった。(20代男性)
- ◇インターネットによる会議など、「現場集合でなくても可能」な事が多いと気づけたりして、必要に迫られてとはいえ、変化が良い方向に出たものもある。(30代女性)
- ◇旅行やレジャーの機会が減少し、子どもに様々な体験をさせてやれないことが一番心苦しい。(30代男性)
- ◇祖母が外出しなくなり、老化が進まないか心配。

- ある程度のイベントも必要だと思う。(40代女性)
- ◇漠然とした理由から漠然とした規制により、増々格差のある社会がストレス。甘んじていた生活を見直していく時期だと思う。(50代女性)
- ◇人との接触を避ける生活は味気ない反面、自分の個を楽しむ機会でもある。ただ、人を責めたり精神的に病んだりする人が増えるのが悲しい。
- ◇「リモート会議」が出来るようになり、仲間とのコミュニケーションの機会が増えた。セミナーも便利。外出も減って余分な出費がなくなった。(以上60代以上女性)

北信濃 明治時代の風景



長野郷土史研究会会長

小林 一郎

(1) 善光寺本堂周辺

今年度は、明治10年代に各町村が長野県に提出した町村誌に描かれた挿絵を紹介します。今回は明治15年(1882)ころできた長野町誌の、善光寺境内を描いた「善光寺境内之図」の一部です。

善光寺本堂

善光寺の本堂は、宝永4年(1707)に再建されたものです。ここに描かれているのは、140年ほど前の本堂の姿です。現在の本堂と変わらないように見えますが、屋根の葺き方が違います。現在の本堂はヒノキの皮を用いた檜皮葺きですが、明治時代は現在の山門と同様に、サワラの板で葺く桐葺きでした。檜皮葺きに改められたのは、昭和4年(1929)に落成した大修理の時です。檜皮葺きになってまだ100年もたっていないのです。

御供所

右上に「供所」と書かれているのは、御供所です。毎朝、本尊と三卿(善光・善佐・弥生の前)に供える食事を用意する、善光寺の台所です。また越年の儀式なども、ここで行われます。ここに描かれた御供所は木造ですが、昭和31年(1956)に鉄筋コンクリートの建物に改築されています。阿弥陀如来と大黒天がまつられています。

鐘楼

善光寺の「鐘楼」は、弘化4年(1847)の善光寺地震の後、嘉永6年(1853)に再建されました。ちょうどペリーが浦賀に来航した年です。令和2年に国の登録有形文化財となりました。この絵では4本柱に描かれていますが、実際は6本柱です。「南無



長野町誌(長野県立歴史館蔵)より

阿弥陀仏」の6字を表しているといわれます。元は瓦葺きでしたが、大正15年(1926)に檜皮葺きに改められました。平成26年(2014)11月の神城断層地震では石積みの基壇が大きく崩れ、大修理が行われたことは、まだ記憶に新しい出来事です。

梵鐘(釣鐘)が大きく描かれていますが、実際の大きさは、高さ1.8m、口径1.16mです。寛文7年(1667)に制作されたものです。寛文

如来堂と呼ばれた善光寺の前本堂は、前年の寛文6年(1666)に完成しています。本堂の落成に合わせて、梵鐘も新調されたのでしょうか。戦争中の昭和18年(1943)に重要美術品に指定されたため、金属供出を免れました。

地震塚

鐘樓の脇に「横死人冢」(「冢」は「塚」と同じ)があって、石塔が描かれています。これは弘化4年(1847)の善光寺地震の犠牲者を弔った供養塔です。高さ約4mの宝篋印塔で、「地震横死冢」と刻まれています。地震が起こった弘化4年3月24日は御開帳の最中で、多数の全国からの参拝者が犠牲になりました。ここには約2500人の遺骨が葬られているということです。

この塚を建てたのは、上田海野町の土屋仁輔です。仁輔は地震の直後、大八車10台に救援物資を積んで急行し、救援活動をしたと伝えられています。そして無縁の遺体を集め、この塚を建立したのです。

大仏

「横死人冢」の近くに、簡単な覆い屋に入った「大仏」が描かれています。これは現在は六地蔵の北にある「ぬれ仏」(大仏地蔵)です。八百屋お七を供養するために、吉三郎が建てたという伝説がありますが、実際には享保7年(1722)に普光寺村(飯綱町普光寺)の法誉円信が造立したものです。江戸時代は六地蔵の南にありましたが、明治6年(1873)にこの絵のように地震塚の近くに移動して、覆い屋が造られました。明治20年代になって経蔵の近



雲に隠されて描かれなかった寛慶寺の本堂

くに一旦移った後、明治27年(1894)に現在地に移転しました。

千人塚

本堂と御供所の間、常夜灯と重なって見えづらいのですが、三重の石塔が描かれています。これは川田村(長野市若穂)の西沢平左衛門ら3792人が、逆修供養(生前の供養)のために寛文元年(1661)に建てた石塔です。しかしこれには、百姓一揆の犠牲者を弔った石塔だという2つの伝説があります。

1つは、慶長5年(1600)ころ、海津城主森忠政の厳しい検地に抵抗した、百姓一揆による犠牲者を弔った石塔という説。もう1つは、延宝4年(1676)に現在の長野市南高田を中心起こった二斗八騒動の犠牲者を弔った石塔という説です。こちらの伝説では、二斗八塚と呼ばれています。

描かれなかった寛慶寺

この絵では、右下や上部が雲に覆われていて、描かれていません。この雲は、「すやりがすみ」と呼ばれる日本画の伝統的な技法です。

右下には、善光寺に接して浄土宗の寛慶寺(東之門町)があるはずですが、善光寺と直接関係のない寺院なので、描かなかったのでしょうか。こうした場合に、「すやりがすみ」は都合のいい技法です。

5月号は「善光寺仲見世周辺」の予定です。

◆コロナ感染拡大で自粛(延期・中止)していること

「旅行やレジャー」71% 「外食」43% 「友人との交流」39%
「会社の懇親会」32% 「趣味や娯楽の外出」29%

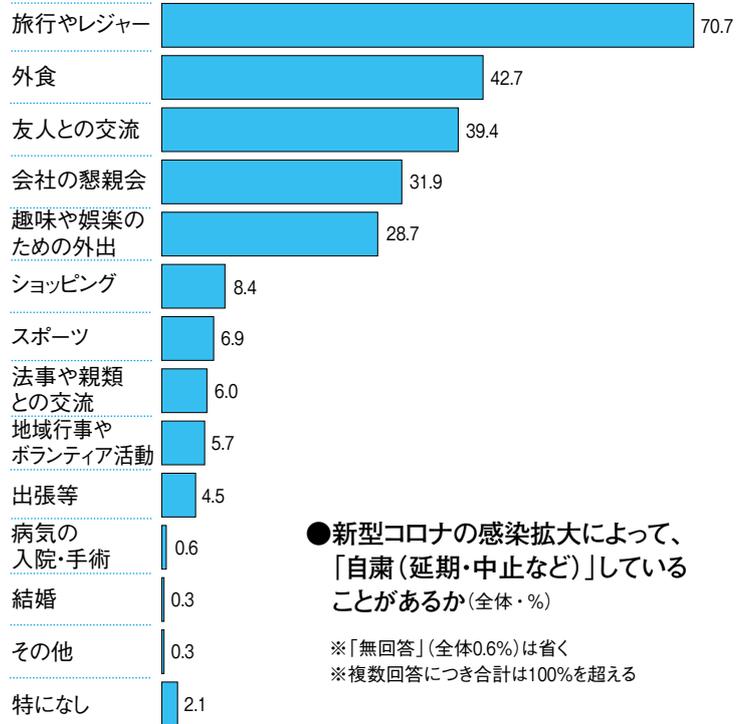
「新型コロナの感染拡大で、いま自粛していることは何か」を聞きました。

1位は「旅行やレジャー」で71%、2位は「外食」で43%、3位は「友人との交流」で39%、4位は「会社の懇親会」で32%、5位は「趣味や娯楽のための外出」で29%となりました。

男女別で1位～5位を見ると、全体と比べ、男性は、3位と4位が入れ替わり、女性は、2位と3位、4位と5位がそれぞれ入れ替わっています。

世代別で1位～5位を見ると、全体と比べ、10～20代は、2位から5位までが入れ替わり、30～40代は2位から4位までが入れ替わり、50代以上は、全体と同じでした。

(当金庫・2022年3月調査)



●新型コロナの感染拡大によって、「自粛(延期・中止など)」していることがあるか(全体・%)

※「無回答」(全体0.6%)は省く
※複数回答につき合計は100%を超える

項目	全体	男性	女性	10～20代	30～40代	50代以上
旅行やレジャー	1位	1位	1位	1位	1位	1位
外食	2位	2位	3位	4位	3位	2位
友人との交流	3位	4位	2位	2位	4位	3位
会社の懇親会	4位	3位	5位	5位	2位	4位
趣味や娯楽のための外出	5位	5位	4位	3位	5位	5位

●みなさまの税務相談のご案内 [5月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
5月 9日	月 城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	5月 19日	木 篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)
11日	水 大豆島支店 (長池支店)		23日	月 若穂支店	小布施支店 (中野支店)
12日	木 南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	24日	火 大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
13日	金 墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	25日	水 本店営業部	
17日	火 屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	26日	木 本 部	
18日	水 更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	30日	月 本 部	

